

広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の令和3年度における目標達成状況等について

1 計画の概要

(1) 策定・改定年月

平成27年3月策定、令和3年3月改定

(2) 計画の概要

国の法律・計画や広島県の「広島県廃棄物処理計画」、本市の「広島市総合計画」、「広島市環境基本計画」等との整合を図り、長期的・総合的な視点のもと、「ゼロエミッションシティ広島の実現」を基本理念として、本市における一般廃棄物処理を計画的に推進するための方針を示している。

また、「食品ロスの削減の推進に関する法律」第13条に基づき、本計画の中に食品ロス削減推進計画を位置付け、市民・事業者・行政の協働による取組を一層推進することとしている。

(3) 基本理念・基本方針

【基本理念】：『ゼロエミッションシティ広島の実現』
 本計画に掲げる施策を市民・事業者・行政が一体となって更に推進し、資源が循環して天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される美しく魅力あふれる都市、ゼロエミッションシティ広島の実現に向けた挑戦を続けていきます。

- 【基本方針1】：市民・事業者・行政が一体となったごみの減量とリサイクルの推進
- 【基本方針2】：安定的なごみ処理体制の確保
- 【基本方針3】：分別区分・収集運搬体制の再構築
- 【基本方針4】：コストの削減
- 【基本方針5】：ごみのないきれいなまちづくりの推進

(4) 計画期間

平成27年度～令和6年度（前期：平成27年度～令和元年度、後期：令和2年度～令和6年度）



(5) 減量目標

区分	目標	基準年度	中間目標年度	最終目標年度
		平成25年	令和元年度	令和6年度
排出量	最終目標年度（令和6年度）までに ごみ総排出量を 337,000t/年（約1割削減）に 1人1日当たりのごみ排出量を 785g/人日（74g削減）に	37.2万t (859g/ 人日)	目標値 35.9万t (826g/人日)	33.7万t (785g/人日)
			実績値 37.3万t (853g/人日)	
焼却量	最終目標年度（令和6年度）までに 焼却量を285,000t/年に	30.4万t	目標値 29.8万t	28.5万t
			実績値 30.4万t	
埋立量	最終目標年度（令和6年度）までに 埋立量を40,000t/年（約3割削減）に	5.6万t	目標値 4.9万t	4.0万t
			実績値 6.1万t	

(6) 進行管理

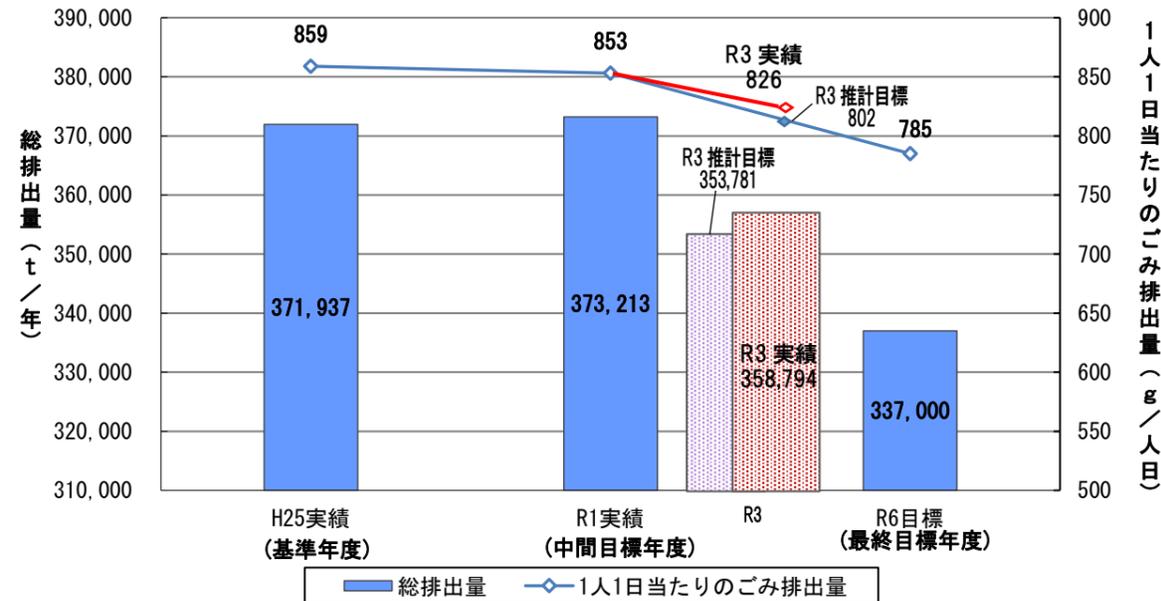
計画を着実に推進するため、施策の実施状況及び目標の達成状況を毎年度把握し、PDCAサイクル（計画（Plan）・実行（Do）・点検（Check）・見直し（Action））に基づき、計画の適切な進行管理を行うとともに、施策の実施状況や効果等を評価し、ごみ排出量等の推移や社会情勢の変化などを踏まえた上で、新たな施策の導入についても検討する。

2 減量目標の達成状況

項目	平成25年度実績 (基準年度)	令和3年度実績 (A)	令和3年度目標値 (B)	令和6年度目標値 (最終年度)	目標達成率 {1-(A-B)/B} ×100
1年当たりのごみ総排出量(t)	371,937	358,794	353,781	337,000	98.6%
家庭ごみ(t)	214,681	221,029	209,186	-	94.3%
事業ごみ(t)	155,424	136,659	143,164	-	104.5%
都市美化ごみ(t)	1,832	1,106	1,431	-	122.7%
1人1日当たりのごみ排出量(g/人日)	859	826	802	785	97.0%
1年当たりのごみ焼却量(t)	303,687	293,854	300,178	285,000	102.1%
1年当たりのごみ埋立量(t)	55,859	46,370	44,861	40,000	96.6%

※ 計画の目標値は、令和元年度（中間目標年度）及び令和6年度（最終目標年度）で設定しており、年度ごとに設定していないが、便宜的に各年度に割り振って令和3年度目標値を推計した。

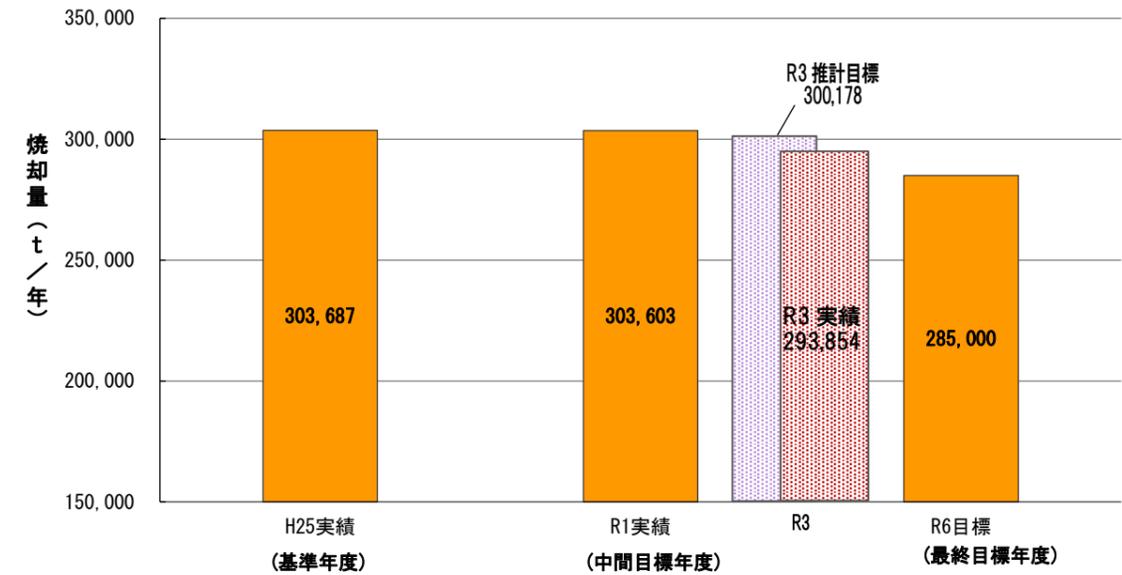
○ 排出量



【達成状況】

- 令和3年度のごみ排出量は358,794 tと、令和3年度目標値の推計値353,781 tより5,013 t多く、目標達成率は98.6%
- 令和3年度の1人1日当たりのごみ排出量は826 gと、令和3年度目標値の推計値802 gより24 g多く、目標達成率は97.0%

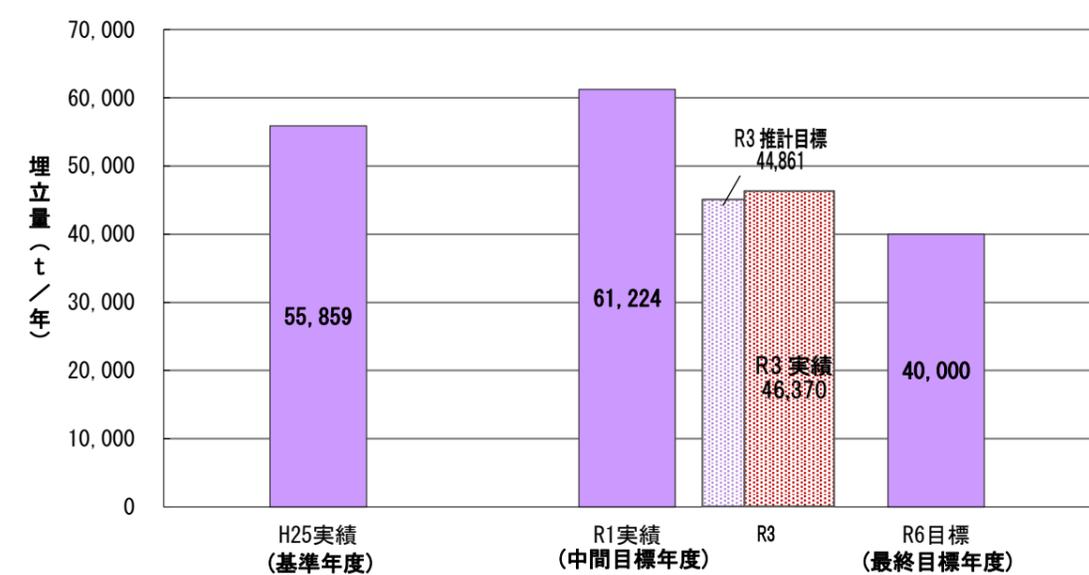
○ 焼却量



【達成状況】

- 令和3年度の焼却量は293,854 tと、令和3年度目標値の推計値300,178 tより6,324 t少なく、目標達成率は102.1%

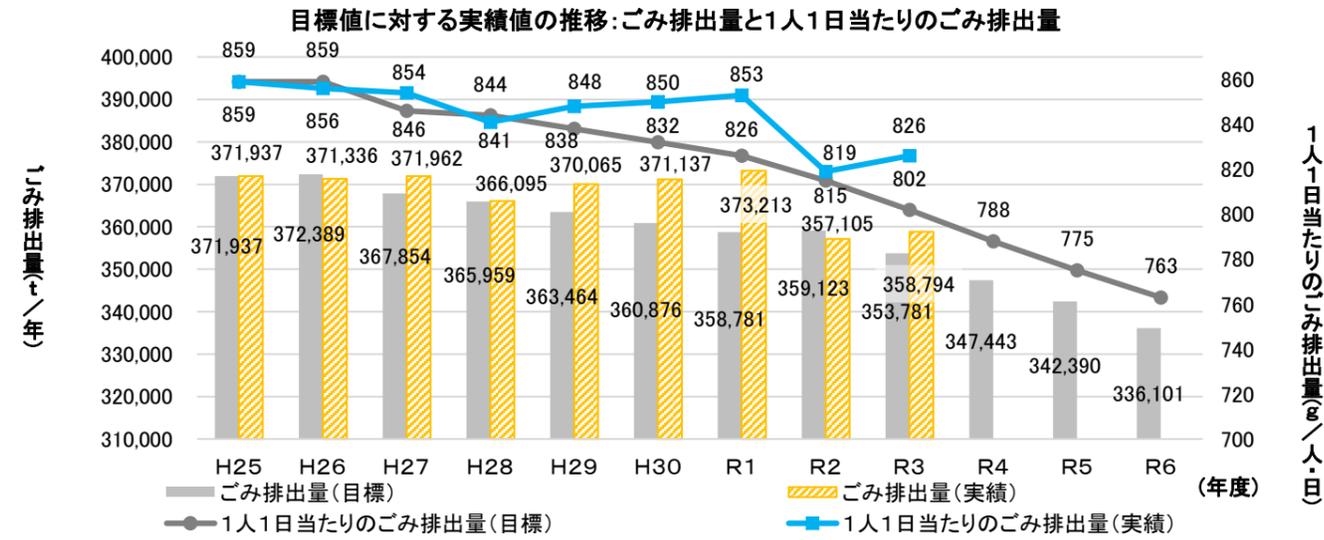
○ 埋立量



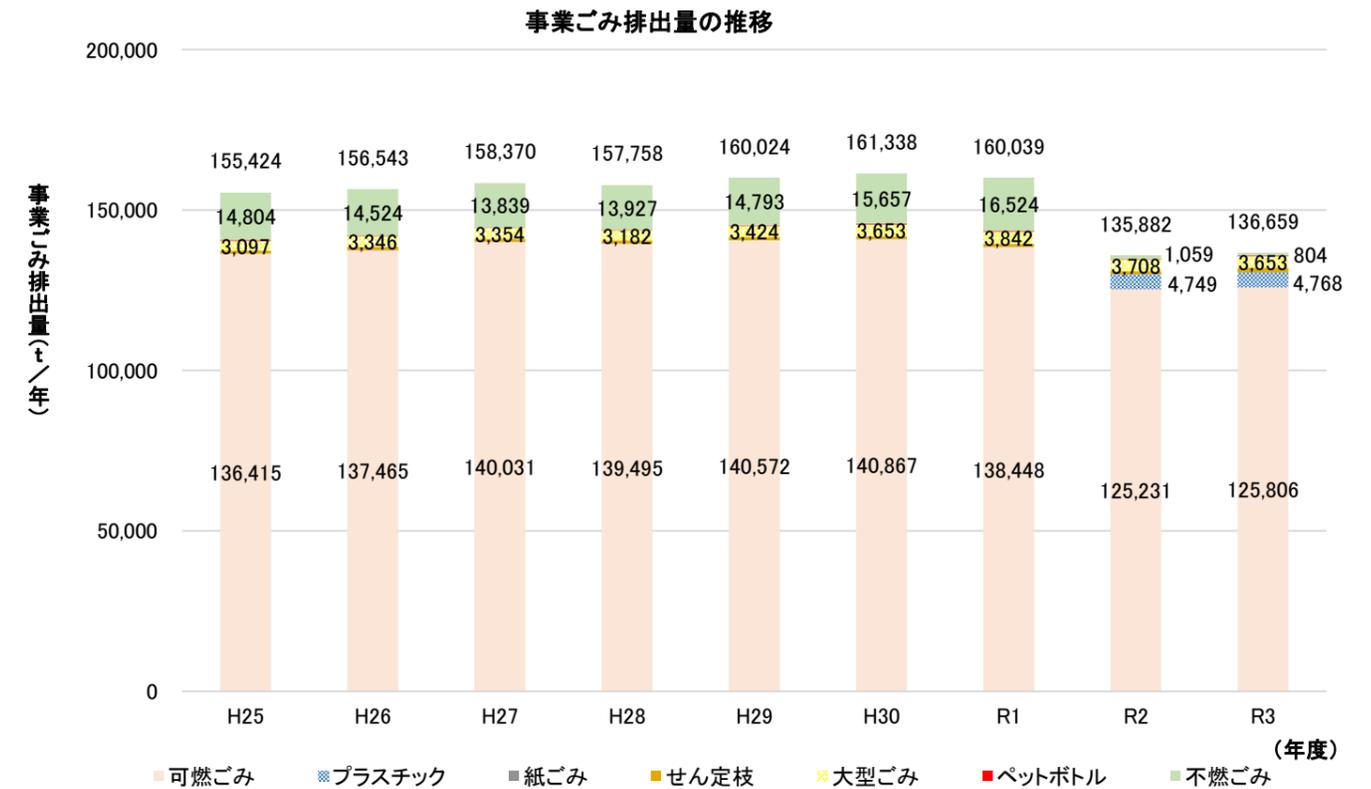
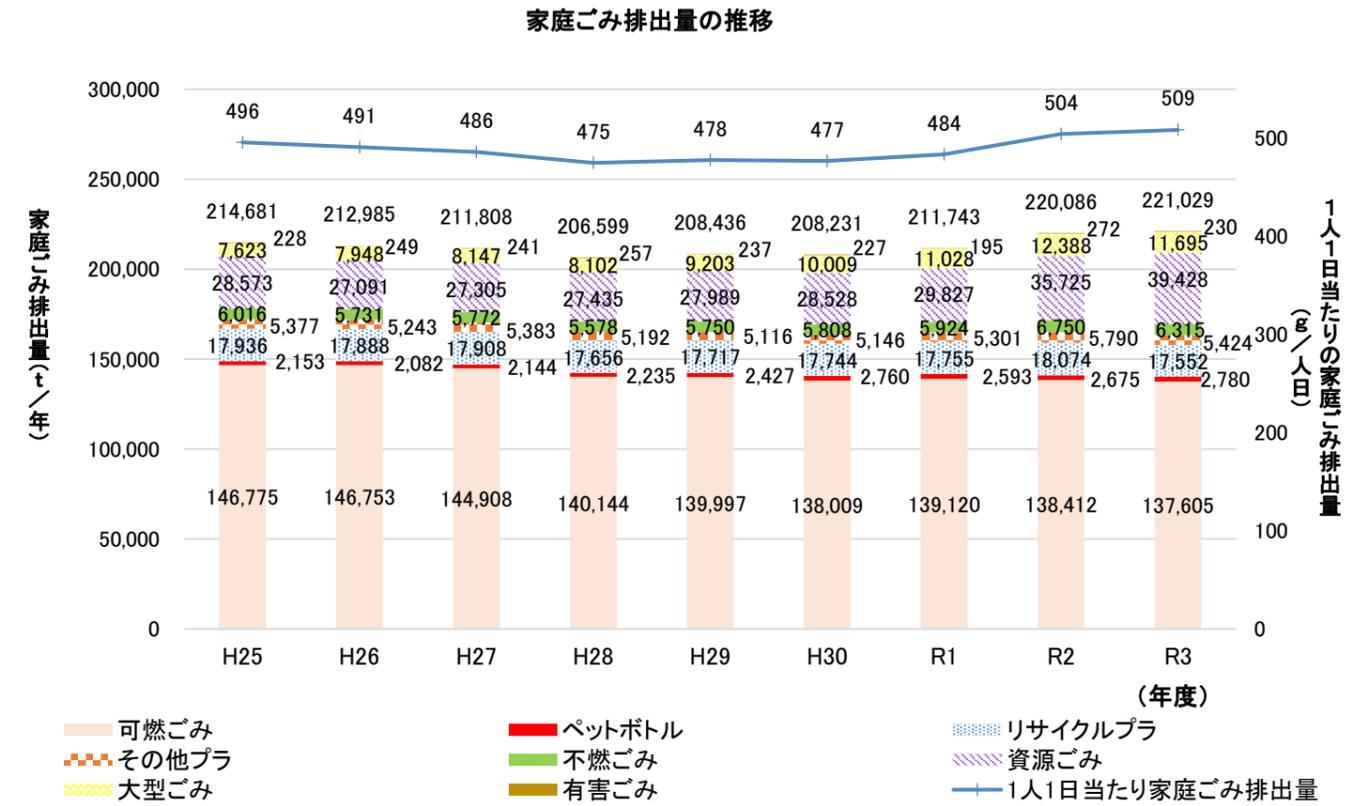
【達成状況】

- 令和3年度の埋立量は46,370 tと、令和3年度目標値の推計値44,861 tより1,509 t多く、目標達成率は96.6%

3 排出量の状況



○ ごみ種類別排出量の推移



○ 増減等の主な状況

① 総排出量

- 令和2年度は大幅に減少したが、令和3年度は増加に転じた。

② 家庭ごみ排出量

- 基準年度の平成25年度から平成28年度までは年々減少していたが、平成29年度からは増加傾向である。令和3年度は令和2年度に比べ微増となっている。

<減少>

- 可燃ごみは、減少傾向にあり、令和3年度は137,605tと、基準年度である平成25年度の146,775tと比べると9,170t少なく、6.2%減となった。

<増加>

- 大型ごみは、平成28年度及び令和3年度を除き年々増加しており、令和3年度は11,695tと、基準年度である平成25年度の7,623tと比べると、4,072t多く、53.4%増となった。
- 資源ごみは、平成26年度を除き年々増加しており、令和3年度は39,428tと、基準年度である平成25年度の28,573tと比べると、10,855t多く、38.0%増となった。
- ペットボトルは、平成26年度及び令和元年度を除き年々増加しており、令和3年度は2,780tと、基準年度である平成25年度の2,153tと比べると、627t多く、29.1%増となった。

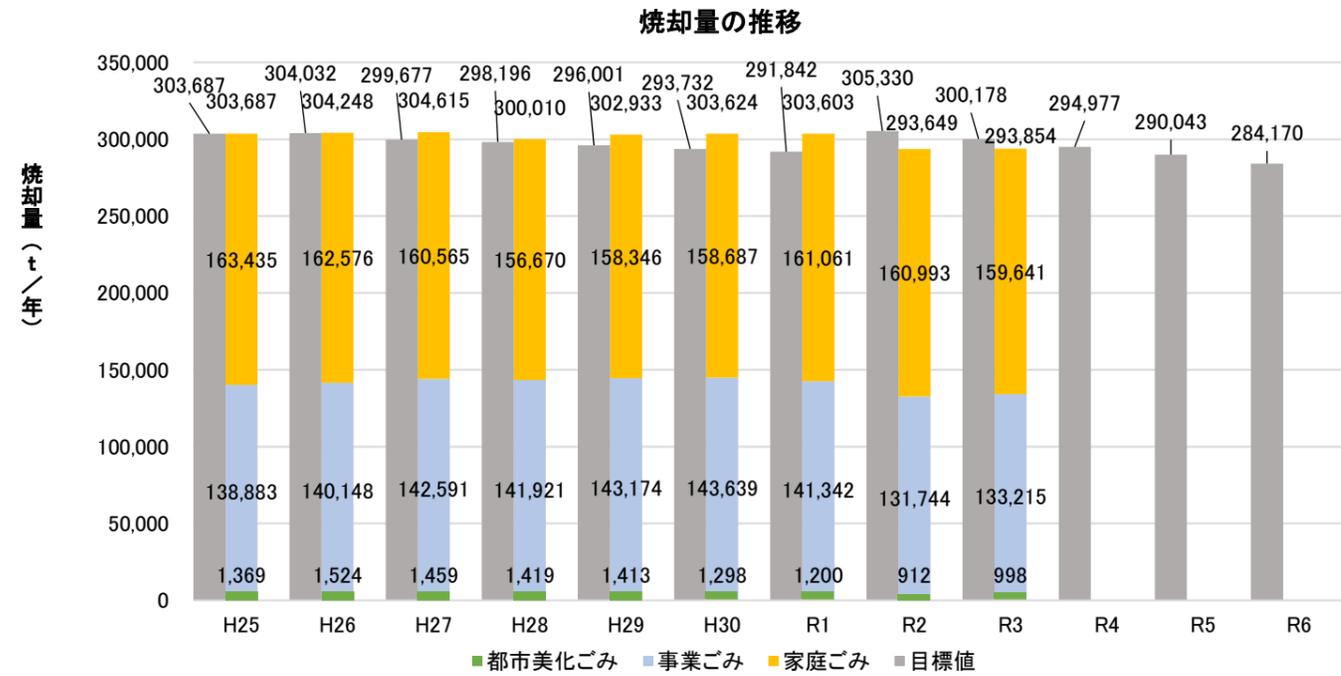
③ 事業ごみ排出量

- 基準年度の平成25年度以降、平成28年度を除き平成30年度まで年々増加していたが、令和元年度に減少に転じ、令和2年度は大幅に減少した。令和3年度は令和2年度に比べ微増となっている。

○ 増減等の要因

- 家庭ごみ：新型コロナウイルス感染症の影響及び資源ごみの持ち去り行為禁止
 - 令和2年度に引き続き、自宅の整理整頓を行う人やネットショッピングを利用する人、在宅勤務の人の増加など、新しい生活様式や働き方の変化に伴いごみ排出量が増加したものと考えられる。
 - また、廃棄物の処理及び清掃に関する条例を改正し、令和3年10月1日から資源ごみの持ち去り行為を禁止したため、資源ごみの排出量が増加したと考えられる。
- 事業ごみ：新型コロナウイルス感染症の影響
 - 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による事業活動縮小に伴い排出量が大幅に減少したと考えられるが、事業活動が再開し始めたことから、令和3年度は排出量が微増したと考えられる。

4 焼却量の状況



(t)

区分	H25実績 (基準年度)	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	増減
家庭ごみ	163,435	162,576	160,565	156,670	158,346	158,687	161,061	160,993	159,641	↓
事業ごみ	138,883	140,148	142,591	141,921	143,174	143,639	141,342	131,744	133,215	↓
都市美化ごみ	1,369	1,524	1,459	1,419	1,413	1,298	1,200	912	998	↓
計	303,687	304,248	304,615	300,010	302,933	303,624	303,603	293,649	293,854	↓

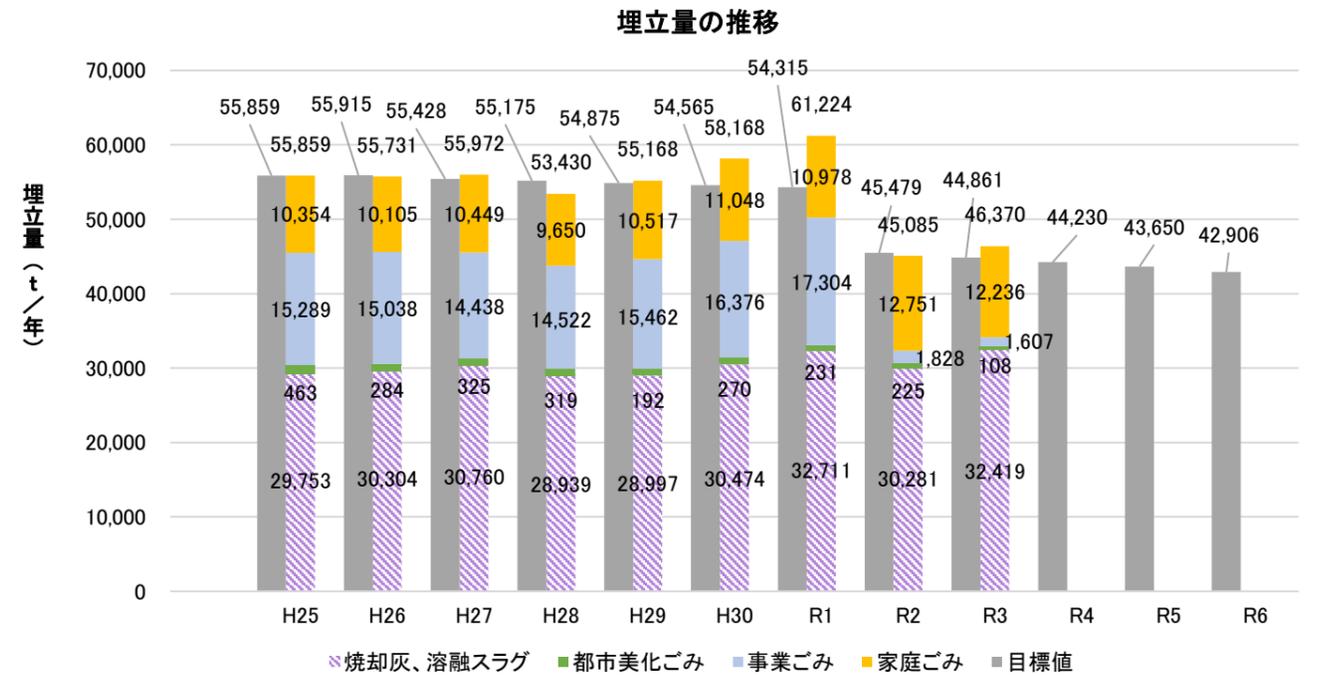
○ 増減等の主な状況

- 令和3年度の焼却量は293,854tと、基準年度である平成25年度の303,687tと比べて9,833t減少した。
- 令和3年度の家庭ごみ焼却量は159,641tと、基準年度である平成25年度の163,435tと比べて3,794t減少した。
- 令和3年度の事業ごみ焼却量は133,215tと、基準年度である平成25年度の138,883tと比べて5,668t減少した。

○ 増減の主な要因

- 家庭ごみ：ごみ減量・リサイクルの推進に向けた各施策の成果により家庭系可燃ごみの排出量が減少したことが要因と考えられる。
- 事業ごみ：新型コロナウイルス感染症拡大により事業系可燃ごみの排出量が減少したことが要因と考えられる。

5 埋立量の状況



(t)

区分	H25実績 (基準年度)	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	増減
家庭ごみ	10,354	10,105	10,449	9,650	10,517	11,048	10,978	12,751	12,236	↑
事業ごみ	15,289	15,038	14,438	14,522	15,462	16,376	17,304	1,828	1,607	↓
都市美化ごみ	463	284	325	319	192	270	231	225	108	↓
焼却灰等	29,753	30,304	30,760	28,939	28,997	30,474	32,711	30,281	32,419	↑
計	55,859	55,731	55,972	53,430	55,168	58,168	61,224	45,085	46,370	↓

○ 増減等の主な状況

- 令和3年度の埋立量は46,370tと、基準年度である平成25年度の55,859tと比べて9,489t減少した。
- 令和3年度の家庭ごみ埋立量は12,236tと、基準年度である平成25年度の10,354tと比べて1,882t増加した。
- 令和3年度の事業ごみ埋立量は1,607tと、基準年度である平成25年度の15,289tと比べて13,682t減少した。

○ 増減の主な要因

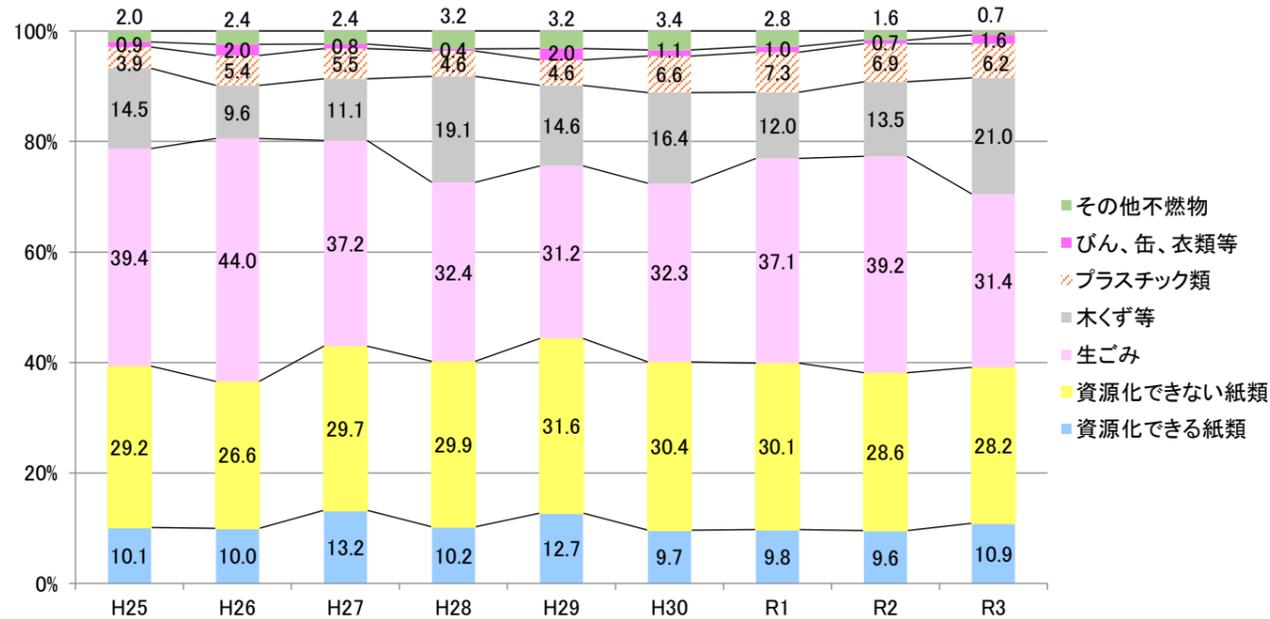
- 家庭ごみ：家庭系大型ごみの排出量が増加したことが要因と考えられる。
- 事業ごみ：令和2年度から廃プラスチック類の市最終処分場での受入れを中止したことが要因と考えられる。

(参考) 組成分析調査結果

○ 家庭系可燃ごみの組成分析結果の推移

年度によって増減はあるものの、各年度ともに紙類が全体の約4割を占めており、紙類のうちの約2～3割は資源化できる紙類であることについても大きな変化は見られなかった。

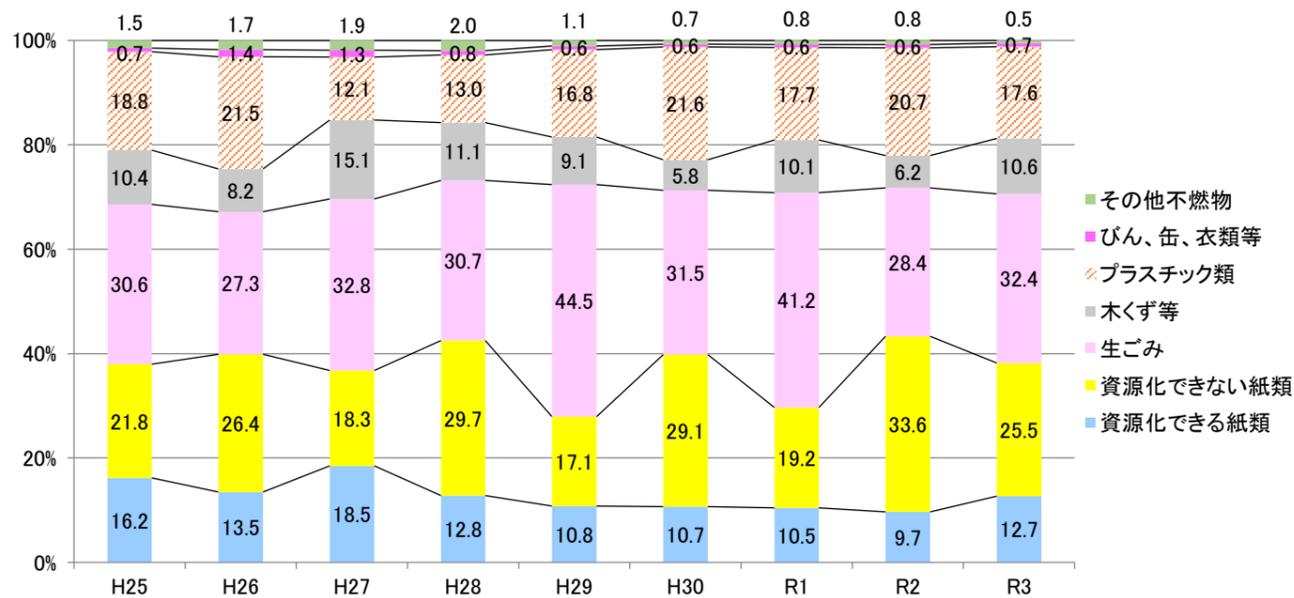
また、生ごみについては、平成30年度以降、全体に占める割合が増加していたが、令和3年度は全体に占める割合が約3割と減少した。



○ 事業系可燃ごみの組成分析結果の推移

家庭系可燃ごみと同様、各年度ともに紙類が全体の約3～4割を占めているが、そのうち紙類に資源化できる紙類が約2～5割含まれており、家庭系可燃ごみよりも資源化できる紙類の割合が高い。

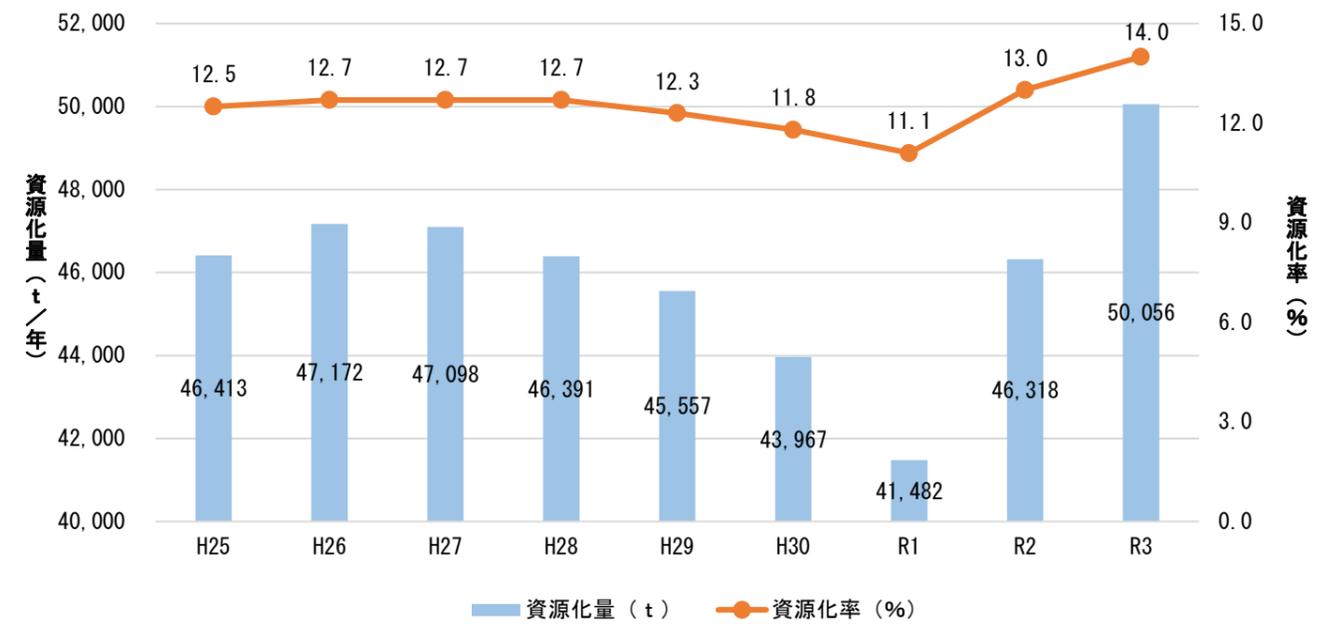
また、生ごみが概ね3～4割を占めており、期間の中で増減の傾向はうかがえない。



(参考) 資源化量の推移

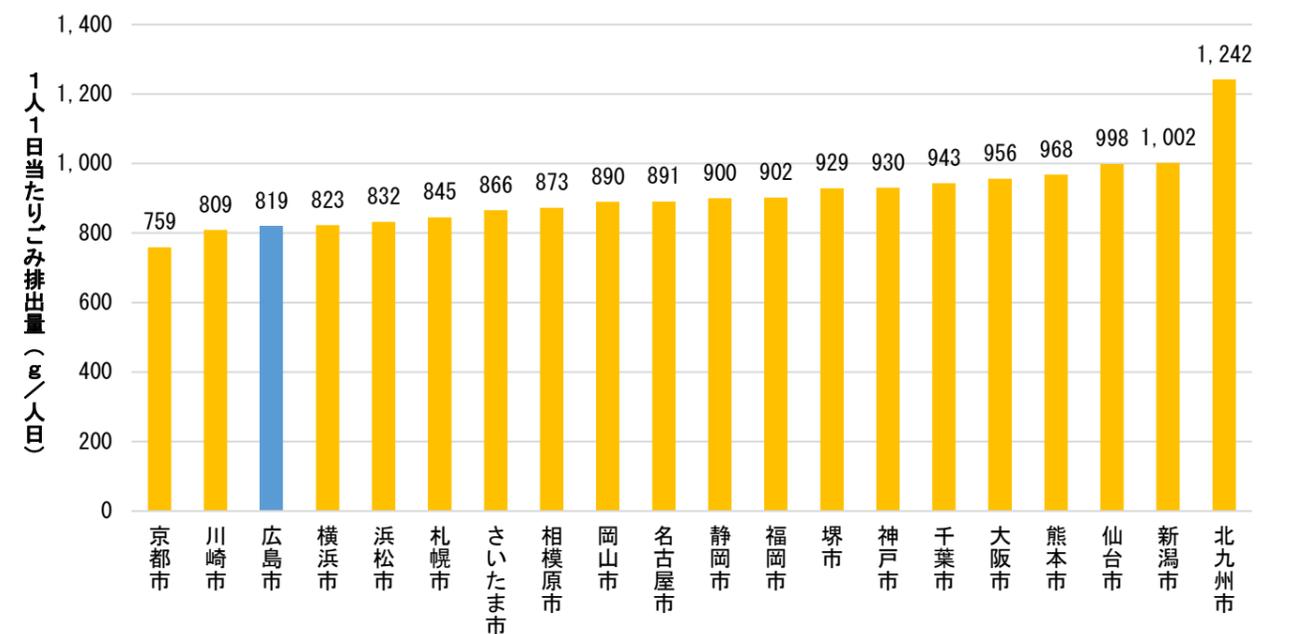
本市の資源化量*は、平成26年度以降令和元年度にかけて減少傾向だったが、令和2年度からは増加している。これは、本市の各施策の成果により市民・事業者がごみの分別やリサイクルへより一層取り組むようになったことや、新型コロナウイルス感染症が拡大し、自宅で過ごす時間の増えた市民が片づけをするようになり、大型ごみや資源ごみの排出量が増えたこと、資源ごみの持ち去り行為を禁止したことにより、資源ごみの排出量（回収量）が増加したことが要因と考えられる。

(※ 民間による資源化量は含まない。)



(参考) 1人1日当たりごみ排出量の政令指定都市比較

本市の1人1日当たりのごみ排出量は、平成17年度から平成28年度まで政令指定都市の中で最少となり、平成29年度以降も低い水準を維持している。



(資料：環境省 令和2年度一般廃棄物処理実態調査結果)